

佳作

『続あしながおじさん』 ジーン・ウェブスター著 松本恵子訳

法学部 3年 吉村美保

人気作品の続編が書かれた場合、だいたいにおいて本編である最初の作品の方が面白かったと言われるのが一般的です。しかし、この『続あしながおじさん』はあの有名作品である原作者の『あしながおじさん』に勝るとも劣らない面白い小説です。しかし知名度においては、本編である『あしながおじさん』と天と地ほどの差があるように思われます。まず知らない方もいらっしゃると思うので、本編である『あしながおじさん』のあらすじを簡単に紹介します。孤児院育ちの主人公のジュディーは、本来なら高校を出たら働かなくてはならなかったが、あるお金持ちの男の人(ジュディーはその人のことをあしながおじさんと呼びます)に作文の才能を見いだされて、小説家になるための勉強として大学に通わせてもらえることとなります。その代わりとして、あしながおじさんに1カ月に1度手紙を書きます。その楽しい大学生活を綴ったユーモアあふれる手紙を本にしたという体裁の書簡体小説となっています。

私が今回紹介する『続あしながおじさん』は、本編とは主人公が代わりジュディーの友達であったサリーが、ジュディーやその他の人に宛てた手紙がその内容となっています。本編では舞台は基本的に大学にあります。ジュディーが、一般的な家庭に育った他の学生たちと孤児院で育った自分との違いに悩みながら成長し、幸せを掴むシンデレラストoryです。それに対し、続編は幸せな家に生まれ、楽しい大学生活を過ごしたサリーが、ジュディーに依頼されてジュディーの育った孤児院を改革しながら自分の幸せを探求する物語です。この本は1915年に出版された本であり、今から丁度100年前の本ですが、扱われている題材は少しも古くありません。サリーは、最初はジュディーに押し切られて孤児院の院長になったのですが、孤児院のひどい現状を知り、だんだんと子供たちに愛情を持つようになり仕事にやりがいを感じるようになります。孤児院での教育についてまわりと対立しながら改良していくサリーは、サリーが孤児院で働くことに反対する婚約者と仕事との間で悩みます。夫と性格の不一致で離婚するサリーの元同級生が出てくる一方で、小説家として独り立ちを目指していたジュディーは家庭におさまり子供と夫とともに幸せそうに暮らしています。女性として、いや人間の人生における幸福についても考えさせられます。また『あしながおじさん』『続あしながおじさん』ともに人生の幸せ、教育についてだけでなく、主人公の恋愛の行方もとても面白いです。また二つの物語には、それぞれ謎解きのような趣もあります。『あしながおじさん』では、ジュディーを援助してくれるあしながおじさんの正体はどのような人なのか、『続あしながおじさん』ではサリーの味方であり敵でもあるドクトルの謎について読んでいくと徐々に解き明かされていきます。

友人から素敵な手紙をもらったような素晴らしい作品です。ぜひ読んでみてください。